

【主題名】気持ちをこめて 内容項目 「B-(6) 思いやり, 感謝」

【教材名】心に寄りそう (東京書籍 新しい道徳2)

<あらすじ>看護師の山田さんは、これまでの経験から、一人一人の患者さんと目線を合わせてあいさつをしたり、名前を呼んで声を掛けたりすること、そのときどきの心に寄りそって接することの大切さに気付いた。

【ねらい】

内容項目の理解

思いやり, 感謝の中で、思いやりという道徳的価値について指導する。

児童生徒の実態把握

相手の気持ちを察することなく、自己中心的な接し方をしてしまう。

本時のねらいを設定する

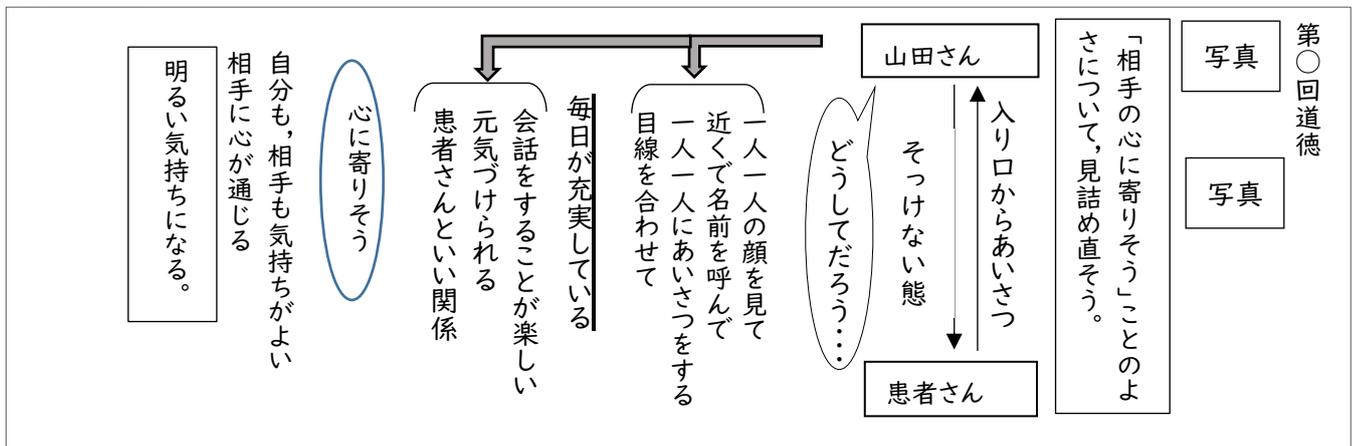
判断力 心情 実践意欲 態度

思いやりの心を持って、他者との交わりを深めようとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 教材の内容に興味や関心を持つ。</p> <p>○ この写真に共通していることは、どのようなことですか。 (患者の心に寄りそっている看護師の写真, 幼児と笑顔で接している保育士の写真など)</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>「相手の心に寄りそう」ことのよさについて、見詰め直そう。</p>	<p>導入の工夫</p>
展開	<p>3 教材を読んで話し合う。</p> <p>○ 最初、患者さんは、なぜ山田さんにそっけない態度をとったと思いますか。</p> <p>○ 山田さんは、どのような心配りをしましたか。</p> <p>4 「相手の心に寄りそう」ことについて考える。</p> <p>◎ 「毎日が充実している」と感じるようになったのはなぜでしょう。</p> <p>○ 「相手の心に寄りそう」ことのよさには、どのようなことがありますか。</p>	<p>展開の工夫</p> <p>多面的・多角的</p> <p>自分との関わり</p>
終末	<p>5 説話を聞いて、自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>・ 「情けは人の為ならず」ということわざについての説話を聞く。</p>	<p>終末の工夫</p>

【板書計画】



【評価】

心に寄りそいながら接することのよさについて、自分との関わりで考える学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。